

基調報告

名古屋市立大学名誉教授・元参議院議員 牛 嶋 正

21世紀の名古屋を展望するにあたって、1970年代から80年代にわたって、名古屋市の街づくりや行財政に関係してきた立場から、21世紀の街づくりにおいて名古屋が目指すべき方向性を考える。

限られた時間を考え、「街づくりの前提」、「街づくりの目標」および「街づくりへの期待」の3点に絞り、20世紀の街づくりと比べて、街づくりの前提に置かれる社会環境および自然環境がどう変わるかを想定し、そのうえで街づくりの姿勢や方向づけを示しながら、日本列島のほぼ中央に位置する名古屋が日本の国づくりで期待される役割について考える。

1. 街づくりの前提

国づくり・街づくりにおいて、20世紀と21世紀のその前提の最も大きな違いは、人口の推移である。明治維新以降わが国ではずっと人口は増加してきた。したがって、21世紀に入って人口の減少が始まり、次第に加速していくことが予想されることから、街づくりにおいても思い切った方向転換が迫られる。

2. 街づくりの目標

1960年代から80年代の街づくりの目標：「利便性」

1980年代の街づくりの目標：「利便性」 + 「快適性」

1990年代の街づくりの目標：「利便性」 + 「快適性」 + 「安全・安定性」

21世紀の街づくりの目標：「利便性」 + 「快適性」 + 「安全・安定性」 + 「災害に強い」

3. 街づくりへの期待

三大都市のひとつに数えられてきた名古屋であったが、東京と大阪の競い合いを横目で見ながら、これまでは独自の街づくりを進めてきたともみなされるが、21世紀においては名古屋が日本列島のほぼ中央部に位置するという地理上の特色を生かして、21世紀の国づくりにおいて名古屋が安定要因として、そのかじ取りの一端を担うことが期待される。

〈国土・人口の重心と名古屋〉



凡例：○－国土(本州)の重心
*－人口の重心
n－名古屋市